FAX 079 (435) 0609

編集/企画グループ 印刷/明光印刷

播磨町のホームページアドレス http://www.town.harima.lg.jp " Eメールアドレス kikaku@town.harima.lg.jp

(郷土資料館

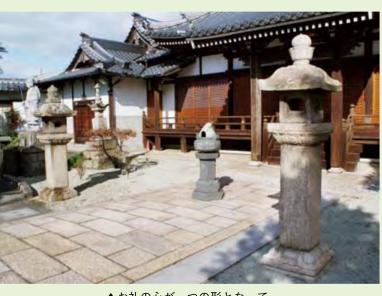


た町内の一気化財

「歴史の宝石箱」播磨町。身近なところに、地域の人びとが大切に受け継いできた貴重な文化財があります。 【問い合わせ】郷土資料館 **2**079 (435) 5000

む りょう じゅ いん 石灯籠

今月は無量寿院にある石灯籠を紹介します。



▲お礼の心が一つの形となって

[クイズ]

に使うものでしょう。

①お札を燃やすため

② 仏様に浄火を捧げるため

③足もとを照らすため



「灯籠」とは本来はなんのため

根のような「笠」がきて、一番上に「宝珠」があります。

さて、この石灯籠の場合、「竿」の部分が四角柱となっている

少し広がる「中台」、そして火が入る「火袋」が置かれ、次に屋

められています。その上に長細く伸びる「竿」

違うところを感じます。

石灯籠のつくりは、

一番下に「基壇」といわれる石の台が埋

対の石灯籠があります。

よく見ると普通の石灯籠と、どこか

左右に目を向けると

無量寿院の本堂の前で手を合わせた後、

の歴史を感じます。 四年」(一六六四)の年号が刻まれています。江戸時代初期にあ われています。 たり、町内で記銘のある灯籠の中では さらに、この灯籠の場合、一対の内、 一番古いものです。お寺 向かって左には「寛文

柱となったのかはよくわかりませんが、なにかの転用かともい のが珍しいのです。普通は節のある円柱となります。なぜ四角

会のとき、仏様へ浄火を捧げるために、本堂の正面につくられ 直き始め、足もとを照らす実用品となっていきます。 てられるようになります。そして、江戸時代になると、 つくられるようになります。 ました。時とともに変化して、 ものは、奈良時代前期の当麻寺のものです。それは、 灯籠の歴史は、 仏教の歴史の中で語られますが、 一方、 室町時代になると、 神前用もでき、 日本最古の 神社にも立 左右一対で 昼間の法 庭にも

古くから多くの人びとの願いをかなえてきたかがよくわかりま あらためて、無量寿院の石灯籠を見ると、このお寺がいかに 館長田井恭一 ②仏様に浄火を捧げるため クイズの答

播磨町マスコットキャラクタ いせきくん、やよいちゃん

町の人口 1月1日現在

男…16,796人 (+3人) 女…17,390人 (±0人)

(住民基本台帳人口+外国籍人口) 世帯数…13,508 (+2)



」が乗り、それから